

教会報ほんじょ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2
TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732
http://www.catholic-honjyo-church.org

INDEX

- 「白髪があつて」
主任司祭 パウロ 豊島 治
- 「パウロ豊島治師の
霊名聖人のお祝い」
- 「ペトロパウロ聖職者の集い」
- 「司牧評議会からのお知らせ」
- その他

「白髪があつて」

主任司祭 パウロ 豊島 治

七月のご挨拶を申し上げます

七番目の月のことを和風月名「文月」と当てはめられています。元々は旧暦の七月を意味し暦の上では秋となる名称ですが、七夕や短冊などをその語源とするのが有力です。

七月の最終土曜に開催される隅田川の花火大会も今年も中止が発表されていますがこんな時こそ日頃の思いを文で伝えたいと考え、今年こそは暑中見舞いハガキを送ろうと本所郵便局を訪ねましたら、暑中見舞いハガキ「カモめぐる」は昨年から発行していないとのこと。出鼻を挫かれ数枚の切手を購入しそのままになってしまっています。頃合いを見て先輩へ向けてハガキでなく手紙を書こうかと思っ

ています。七月の四番目の日曜を教皇様は「祖母と高齢者のための世界祈願日」に昨年一月、創設・制定されました。日本ではこの趣旨を九月の「敬老の日」として記念することが一般的ですが、カトリック教会としてはイエス様の祖母、聖ヨアキムと聖アンナの記念日にある七月二十六日に近い日とされました。教皇様は毎年この日にあたってメッセージを出されています。

二回目となる今年のテーマは「白髪になっても なお実を結び」です。



これは『いかに楽しいことであろう』で始まる詩編九十二の結びです。

『神に従う人は

なつめやしのように茂り

レバノンの杉のようにそびえます。主の家に植えられ

わたしたちの神の庭に茂ります。

白髪になってもなお実を結び

命に溢れ、いきいきとし

述べ伝えるでしょう

わたしの岩と頼む主は正しい方』

教皇さまは今回のメッセージや今年に入ってから「老齢期」という講話から年齢に縛られた見方をしがちな世界へ示唆を与え続けられました。

『わたしたちが実らせる果実の一つは、世界の面倒を見ることです（教皇メッセージより）』

『世界は今、試練の時を迎えています。パンデミックという予期せぬ猛烈な嵐が吹き荒れ、次に地球規模で平和と発展を壊す戦争が起きています。前世紀に戦争を体験した世代がいなくなりつつある今、欧州で戦闘が再び起こったことは偶然ではないでしょう（略）理解ある優しい眼差しと同じ眼差しで他者を見る（責務があります）（同）』

二〇二一年のヨゼフ年から始まり、今年六月までを「『愛のよろこび』（家族年）」にするとされ、結びとなるこの祈願日の流れに対して、司教協議会高見前会長は談話の中で呼びかけられました。

『教皇は（中略）辛い状況にある私たちが、特に、家族のことを想い、大切にしよう、と呼びかけておられるのではないのでしょうか。』

新型コロナウイルスによる対応で高齢者の住居への人の往来が規制されてきました。感染を防ぐためとは言え、これを組織的な高齢者への「切り離し」と指摘する方もおられます。ミサも規制対象となりました。オンラインがあるからと言っても、高齢者と次世代がつながりづらくなったのも事実です。教皇さまが制定時からのメッセージでおっしゃっていたのは若者に希望を与える高齢者の役割と手助けする喜びを示す若者という形でした。

一方介護という不安もあります。現代高齢者へのケアプランは多種あり、手厚いとされていますが、個々の必要な生活の手助けとしては万全ではないと現場は感じています。普段、高齢者のことを考えたり、世話をしたりすると、安全管理という名目での現実の段取りのことではないで、存在の意義や個々人の生きる希望を考えるのをなおざりにしていることに気づくことがあります。

自身も高齢者であるとメッセージで表明されている教皇さまのため、司教のためそして高齢の司祭のために祈りください。

